

# Annual Report 2022

Center for Professional Development in Nursing  
Kyoto Tachibana University

京都橘大学

看護教育研修センター

## 年報 2022



京都橘大学

# INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 10

認定看護師教育課程 11

キャリア開発事業 15

# 刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

## 奥野信行

京都橘大学看護教育研修センターは、「看護職者の専門性を高め、その看護実践力を向上させるための教育研修を行うとともに、地域に貢献する看護職者を育成すること」を目的に、2007年に設立されました。現在は、「認定看護師教育課程」と「看護キャリア開発事業」の二本柱で活動しています。この2つの事業は、時代の要請に応えるべく、継続・発展に努めて参りました。認定看護師教育課程は、皮膚・排泄ケア分野において多くの修了生を輩出しています。そして、さらなる社会の要請に応えるために、本年度から特定行為研修を組み込んだ教育課程（B課程）として新たなスタートを切り、研修生を迎えました。

看護キャリア開発事業は、今年度も「学修成果レポート作成スタート支援講座」「たちばなSIM.」「看護倫理研修」を開催いたしました。学修成果レポート作成スタート支援講座は、健康科学部心理学科通信教育課程・科目等履修生・看護学コースを受講した方が大学評価・学位授与機構へ学位申請する際の「学修成果レポート作成」をサポートしています。受講形態として対面に加え、オンラインでの参加も可能になりました。またオンラインによる受講者同士の交流スペースの提供、講座後の質問受けつけなど、受講者へのサポート体制の充実を図っています。たちばなSIM.は、2012年度からスキルラボ事業として始まり、大学卒業後、臨床においてよりそう看護を実現すべく、学び続けている看護学部の卒業生や共に勤務する看護職を対象とした継続教育として取り組んでいます。2021年からは、清優館1階に整備されたSIMコモンズ（シミュレーションルーム）を活用して、シミュレーションを積極的に取り入れた教育プログラムを展開し、看護職者の学び直し、学びほぐしを支援しています。看護倫理研修は、臨床現場で生じる倫理的問題に向き合うために必要な看護倫理の基本的な考え方を学びます。講義に加えて、臨床現場で出会うことの多い身近な事例を活用したグループディスカッションを行い、倫理的な思考プロセスを整理し、必要な看護実践について検討しています。参加者の方々からは、自己の看護実践だけでなく、職場での看護倫理教育に役立てていきたいという意見もあり、この研修が個人を超えて、組織に波及していく可能性があることに気づき、その重要性を改めて実感いたしております。

各事業の一年間の活動の詳細は、本年報にてご報告いたしますので、ご覧くださいませようお願い申し上げます。また忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

今後も、本センターは、看護職としての成長やキャリア開発のために活用して頂けるよう、努めて参ります。また地域に開かれた大学に附置するセンターとしての役割とその重要性を自覚し、活動の充実を図っていきたいと考えております。引き続き、ご支援、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

# 沿革

## 1) 認定看護師教育課程 教員会

| 開催時期                                          | 内 容                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2007年度<br>4月 17日<br>11月 27日                   | 入試・入学状況と年間計画<br>修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認                                                                                                                                                                                                       |
| 2008年度<br>4月 23日<br>11月 26日                   | 入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認<br>修了判定会議と次年度予定確認および承認                                                                                                                                                                                  |
| 2009年度<br>4月 22日<br>12月 15日                   | 2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討<br>および承認<br>2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認                                                                                                                                                         |
| 2010年度<br>4月 21日<br>12月 7日                    | 2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認<br>再修了試験不合格者に対する対応について審議<br>修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討<br>および承認<br>2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認                                                                                          |
| 2011年度<br>4月 27日<br>12月 14日                   | 2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認<br>年間教育実施計画の検討および承認<br>2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認<br>休学者が復学する場合の条件等について検討と承認                                                                                                                             |
| 2012年度<br>4月 18日<br>12月 18日<br>2月 14日<br>(臨時) | 2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認<br>フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂につ<br>いて検討および承認<br>2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認<br>開講期間延長について審議<br>修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認<br>情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については<br>継続審議となる |
| 2013年度<br>4月 25日<br>12月 19日                   | 2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認<br>年間教育実施計画の検討および承認<br>2014年度5月開講について審議および承認<br>2013年度生の修了判定会議<br>実習不合格による再履修希望者について審議および承認<br>授業時間変更について審議および承認<br>授業時間に関する規定改訂内容について審議および承認<br>2014年度入試結果の確認と承認                                             |
| 2014年度<br>4月 23日                              | 2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認<br>年間教育実施計画の検討および承認<br>センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告<br>第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認                                                                                                                          |

| 開催時期             | 内 容                                                                                        |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2014年度<br>12月 9日 | 2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認<br>2015年度教育期間の確認と承認                                        |
| 2015年度<br>4月 22日 | 2014年度修了報告および2015年度入試結果について確認と承認<br>年間教育実施計画の検討および承認                                       |
| 12月 10日          | センター教員の社会貢献活動報告および2015年度の計画の報告<br>2015年度生の修了判定会議、2016年度入試結果の確認と承認<br>2016年度教育期間の確認と承認      |
| 2016年度<br>4月 20日 | 2015年度修了報告および2016年度入試結果について確認と承認<br>年間教育実施計画の検討および承認<br>皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認         |
| 12月 13日          | センター教員の社会貢献活動報告および2016年度の計画の報告<br>2016年度生の修了判定会議、2017年度入試結果の確認と承認<br>2017年度教育期間の確認と承認      |
| 2017年度<br>4月 19日 | 2016年度修了報告および2017年度入試結果について確認と承認<br>年間教育実施計画の検討および承認<br>皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認         |
| 12月 15日          | センター教員の社会貢献活動報告および2017年度の計画の報告<br>2017年度生の修了判定会議、2018年度入試結果の確認と承認<br>2018年度教育期間の確認と承認      |
| 2018年度<br>4月 18日 | 2017年度修了報告および2018年度入試結果について確認と承認<br>年間教育実施計画の検討および承認                                       |
| 12月 13日          | センター教員の社会貢献活動報告および2018年度の計画の報告<br>2018年度生の修了判定会議、2019年度入試結果の確認と承認<br>2019年度教育期間の確認と承認      |
| 2019年度<br>4月 17日 | 2018年度修了報告および2019年度入試結果について確認と承認<br>年間教育実施計画の検討および承認                                       |
| 12月 12日          | センター教員の社会貢献活動報告および2019年度の計画の報告<br>2019年度生の修了判定会議、2020年度教育期間の確認と承認                          |
| 2020年度<br>4月 15日 | 2019年度修了報告<br>年間教育実施計画の検討および承認                                                             |
| 2月 10日           | センター教員の社会貢献活動報告および2020年度の計画の報告<br>2020年度生の修了判定会議、2021年度休講に関する確認と承認                         |
| 2021年度<br>4月 15日 | 2020年度修了報告<br>復学・再履修者の年間教育実施計画の検討および承認<br>センター教員の社会貢献活動報告および2021年度の計画の報告<br>第一回特定行為研修管理委員会 |

| 開催時期   |         | 内 容                                                                                       |
|--------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2021年度 | 10月 8日  | 特定行為研修を組み込んだ教育課程（B課程）に関する方針および教育計画について<br>第二回特定行為研修管理委員会                                  |
|        | 2月 10日  | 復学・再履修者の修了判定会議、2022年度教育期間の確認と承認<br>第三回特定行為研修管理委員会                                         |
|        |         |                                                                                           |
| 2022年度 | 4月 13日  | 2021年度復学・再履修者修了報告<br>年間教育実施計画の検討および承認<br>センター教員の社会貢献活動報告および2022年度の計画の報告<br>第一回特定行為研修管理委員会 |
|        | 10月 25日 | 2022年度教育課程の進捗状況および研修生の成績について<br>第二回特定行為研修管理委員会                                            |
|        | 3月 9日   | 2022年度生の修了判定会議、2023年度入試結果の確認と承認<br>2023年度教育期間の確認と承認<br>第三回特定行為研修管理委員会                     |
|        |         |                                                                                           |

## 2) 看護キャリア開発委員会

### 2012年度

|       |     |                 |
|-------|-----|-----------------|
| 4月    | 16日 | 第1回看護キャリア開発委員会  |
| 5月    | 7日  | 第2回看護キャリア開発委員会  |
| 6月    | 7日  | 第3回看護キャリア開発委員会  |
| 7月    | 3日  | 第4回看護キャリア開発委員会  |
| 7月    | 31日 | 第5回看護キャリア開発委員会  |
| 9月    | 19日 | 第6回看護キャリア開発委員会  |
| 10月   | 16日 | 第7回看護キャリア開発委員会  |
| 11月   | 20日 | 第8回看護キャリア開発委員会  |
| 2013年 | 1月  | 第9回看護キャリア開発委員会  |
|       | 2月  | 第10回看護キャリア開発委員会 |
|       | 3月  | 第11回看護キャリア開発委員会 |

### 2013年度

|       |     |                |
|-------|-----|----------------|
| 4月    | 17日 | 第1回看護キャリア開発委員会 |
| 5月    | 21日 | 第2回看護キャリア開発委員会 |
| 6月    | 17日 | 第3回看護キャリア開発委員会 |
| 7月    | 23日 | 第4回看護キャリア開発委員会 |
| 9月    | 18日 | 第5回看護キャリア開発委員会 |
| 10月   | 23日 | 第6回看護キャリア開発委員会 |
| 11月   | 27日 | 第7回看護キャリア開発委員会 |
| 2014年 | 1月  | 第8回看護キャリア開発委員会 |

### 2014年度

|       |     |                |
|-------|-----|----------------|
| 4月    | 23日 | 第1回看護キャリア開発委員会 |
| 5月    | 29日 | 第2回看護キャリア開発委員会 |
| 7月    | 23日 | 第3回看護キャリア開発委員会 |
| 9月    | 17日 | 第4回看護キャリア開発委員会 |
| 11月   | 4日  | 第5回看護キャリア開発委員会 |
| 2015年 | 1月  | 第6回看護キャリア開発委員会 |
|       | 3月  | 第7回看護キャリア開発委員会 |

### 2015年度

|       |     |                |
|-------|-----|----------------|
| 4月    | 15日 | 第1回看護キャリア開発委員会 |
| 5月    | 27日 | 第2回看護キャリア開発委員会 |
| 7月    | 6日  | 第3回看護キャリア開発委員会 |
| 9月    | 10日 | 第4回看護キャリア開発委員会 |
| 10月   | 14日 | 第5回看護キャリア開発委員会 |
| 11月   | 27日 | 第6回看護キャリア開発委員会 |
| 2016年 | 1月  | 第7回看護キャリア開発委員会 |
|       | 2月  | 第8回看護キャリア開発委員会 |

## 2016年度

|     |     |                |
|-----|-----|----------------|
| 4月  | 5日  | 第1回看護キャリア開発委員会 |
| 5月  | 23日 | 第2回看護キャリア開発委員会 |
| 6月  | 20日 | 第3回看護キャリア開発委員会 |
| 8月  | 3日  | 第4回看護キャリア開発委員会 |
| 9月  | 21日 | 第5回看護キャリア開発委員会 |
| 10月 | 24日 | 第6回看護キャリア開発委員会 |
| 12月 | 2日  | 第7回看護キャリア開発委員会 |

2017年

|    |     |                |
|----|-----|----------------|
| 2月 | 15日 | 第8回看護キャリア開発委員会 |
|----|-----|----------------|

## 2017年度

|     |     |                |
|-----|-----|----------------|
| 4月  | 18日 | 第1回看護キャリア開発委員会 |
| 5月  | 23日 | 第2回看護キャリア開発委員会 |
| 7月  | 12日 | 第3回看護キャリア開発委員会 |
| 9月  | 26日 | 第4回看護キャリア開発委員会 |
| 10月 | 30日 | 第5回看護キャリア開発委員会 |
| 12月 | 18日 | 第6回看護キャリア開発委員会 |

2018年

|    |     |                |
|----|-----|----------------|
| 2月 | 16日 | 第7回看護キャリア開発委員会 |
|----|-----|----------------|

## 2018年度

|     |     |                |
|-----|-----|----------------|
| 4月  | 17日 | 第1回看護キャリア開発委員会 |
| 7月  | 11日 | 第2回看護キャリア開発委員会 |
| 9月  | 19日 | 第3回看護キャリア開発委員会 |
| 10月 | 16日 | 第4回看護キャリア開発委員会 |
| 11月 | 21日 | 第5回看護キャリア開発委員会 |

2019年

|    |     |                |
|----|-----|----------------|
| 2月 | 18日 | 第6回看護キャリア開発委員会 |
|----|-----|----------------|

## 2019年度

|     |     |                |
|-----|-----|----------------|
| 4月  | 23日 | 第1回看護キャリア開発委員会 |
| 5月  | 27日 | 第2回看護キャリア開発委員会 |
| 6月  | 27日 | 第3回看護キャリア開発委員会 |
| 9月  | 6日  | 第4回看護キャリア開発委員会 |
| 10月 | 4日  | 第5回看護キャリア開発委員会 |
| 12月 | 6日  | 第6回看護キャリア開発委員会 |

2020年

|    |    |                |
|----|----|----------------|
| 2月 | 7日 | 第7回看護キャリア開発委員会 |
|----|----|----------------|



2020年度

|       |     |     |                |
|-------|-----|-----|----------------|
|       | 4月  |     | 第1回看護キャリア開発委員会 |
|       | 5月  |     | 第2回看護キャリア開発委員会 |
|       | 7月  | 22日 | 第3回看護キャリア開発委員会 |
|       | 11月 | 2日  | 第4回看護キャリア開発委員会 |
| 2021年 | 1月  | 18日 | 第5回看護キャリア開発委員会 |
|       | 2月  | 15日 | 第6回看護キャリア開発委員会 |

2021年度

|       |     |     |                |
|-------|-----|-----|----------------|
|       | 4月  | 26日 | 第1回看護キャリア開発委員会 |
|       | 5月  | 25日 | 第2回看護キャリア開発委員会 |
|       | 10月 | 22日 | 第3回看護キャリア開発委員会 |
| 2022年 | 1月  | 14日 | 第4回看護キャリア開発委員会 |

2022年度

|       |    |     |                |
|-------|----|-----|----------------|
|       | 4月 | 26日 | 第1回看護キャリア開発委員会 |
|       | 5月 | 27日 | 第2回看護キャリア開発委員会 |
|       | 7月 | 29日 | 第3回看護キャリア開発委員会 |
| 2023年 | 1月 | 17日 | 第4回看護キャリア開発委員会 |

# 組織

2022年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

---

|         |                                   |
|---------|-----------------------------------|
| 奥 野 信 行 | 京都橘大学看護教育研修センター 所長                |
| 多 田 千和子 | 京都橘大学看護教育研修センター 准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師） |
| 中 務 直 美 | 京都橘大学看護教育研修センター 講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）  |
| 西 本 泰 久 | 京都橘大学健康科学部救急救命学科 教授               |
| 藤 本 幸 三 | 京都橘大学看護学部看護学科 教授                  |
| 餅 田 敬 司 | 京都橘大学看護学部看護学科 准教授                 |
| 小 山 智 史 | 京都橘大学看護学部看護学科 准教授                 |
| 川 村 晃 右 | 京都橘大学看護学部看護学科 専任講師                |

看護キャリア開発委員会

---

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 奥 野 信 行 | 京都橘大学看護教育研修センター 所長 |
| 梶 谷 佳 子 | 京都橘大学看護学部長         |
| 征矢野 あや子 | 京都橘大学看護学部看護学科 教授   |
| 竹 下 夏 美 | 京都橘大学看護学部看護学科 准教授  |
| 中 橋 苗 代 | 京都橘大学看護学部看護学科 准教授  |
| 清 水 彩   | 京都橘大学看護学部看護学科 准教授  |

## 認定看護師教育課程

---

# 認定看護師教育課程

## 1. 認定看護師教育課程〈皮膚・排泄ケア分野〉の研修について

2022年度の認定看護師教育課程〈皮膚・排泄ケア分野〉は、「特定行為研修を組み込んでいる教育課程」(B課程)の1年課程に移行した。今年度は、全国の皮膚・排泄ケア認定看護師教育機関4校のうち、3校がB課程、1校が「特定行為研修を組み込んでいない教育課程」(A課程)での開講となり、当学は4.7倍の受験倍率を経た20名が入学した(15期生)。B課程に移行しても皮膚・排泄ケア認定看護師のニーズは高く、当学を受験し入学する研修生は関西圏のみならず全国から集まっている。

4月6日に入学式を挙行し、4月から7月はeラーニングによる共通科目380時間を学び、その間に3日間×2回の登校日を設け、共通科目の学習を深めるグループワークや科目試験を行った。8月1日から集合教育を行い、263時間の皮膚・排泄ケア分野の専門科目を学んだ。当校のB課程で修了できる特定行為区分は、創傷管理関連の「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」と「創傷に対する陰圧閉鎖療法」、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」と「脱水症状に対する輸液による補正」の4行為である。特に創傷管理関連は、確実な手技の習得と正しい判断が重要となるため、試験はOSCEや観察評価で行った。皮膚・排泄ケア分野の創傷・ストーマ・排泄に関しては実技演習と症例検討の演習時間を確保して、知識と応用力を高める学習をした。

すべての共通科目、専門科目の科目試験に全員が合格し、10月31日から150時間の認定看護師の臨地実習を開始した。COVID-19の影響により実習開始が遅れたり中断する研修生がいた。1名が体調不良により療養となったが、その他の研修生は実習病院

の協力のもと、実習期間の延長や追加実習を行い、規定の実習時間を確保して合格することができた。12月12日からは特定行為の実習を開始し、研修生が所属する自施設並びに当学の協力施設である実習施設で4行為をそれぞれ5症例以上経験し、全員が指導医からの合格の評価を得ることができた。

2月1日から再び集合教育を開始した。統合演習において実習の振り返りとケースレポートの作成・発表を行い、3月3日に修了試験を行った。学内演習、修了試験ともに療養中の研修生を除く全員が合格し3月17日に修了式を挙行した。

これにより当学の認定看護師教育課程の修了生は通算408名となった。

## 2. 認定看護師認定審査に対するフォローアップ研修

2022年2月に修了した14期生2名に対し、10月5日に行われる日本看護協会の認定審査試験に向けてフォローアップ研修を2回行った(7月、9月)。研修の内容は、認定審査を仮定した模試に取り組み、解答と解説は2名でディスカッションを行った。これにより審査に向けて自己に足りない知識を再確認し、モチベーションを保つことを目的としている。

今年度もCOVID-19の影響により集合による研修はできなかったが、2名で臨む認定審査試験に向けて、オンラインを利用した定期的なフォローによって、例年と変わらない内容のサポートを行うことができた。

2022年度の認定審査試験は受験した2名共が合格した。

## 3. 教員の専門領域の活動について

【多田千和子】

1) 京都橘大学看護学部・看護学研究科に対し、下

記の講義を行った。

①看護学部3回生

生涯健やか看護学 2コマ

生涯健やか看護学演習 2コマ

「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」

「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-ケア）」

②看護学研究科

クリティカルケア看護学演習Ⅱ

創傷・皮膚統合性障害 2コマ

広範囲熱傷 2コマ

「クリティカルな状況にある患者の病態や治療に伴う苦痛とその緩和」

2) 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

①第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（オンライン）

②第23回日本褥瘡学会学術集会（横浜市）

口演座長

評議委員会に出席

③第40回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会（東京）

【中務直美】

1) 明治国際医療大学看護学部に対し、下記の講義を行った。

①看護学部4回生

「スキンケア」（皮膚の解剖、スキンケア、褥

瘡ケア、フットケア） 7コマ

②看護学部2回生

基礎看護援助論Ⅲ「皮膚・創傷を管理する技術について」講義と演習 3コマ

2) 京都橘大学看護学部に対し、下記の演習を行った。

①看護学部3回生

生涯健やか看護学演習 2コマ

「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」

「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-ケア）」

3) 大阪府臨床工学技士会第21回血液浄化セミナーにて、臨床工学技士、看護師に対し、フットケアについて下記の講演を行った。

「透析患者の足を救うモニタリング」

4) 下記の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

①第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（オンライン）

②第23回日本褥瘡学会学術集会（オンライン）

③第40回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会（東京）

④第20回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会（奈良）

看護教育研修センター 准教授  
皮膚・排泄ケア認定看護師 多田 千和子



## 看護キャリア開発事業

■2022年度 学修成果レポート作成スタート支援講座 16

■2022年度 たちばなSIM. 24

■2022年度 看護倫理研修 29

# 看護キャリア開発事業

## ■2022年度 学修成果レポート作成スタート支援講座

『学修成果レポート作成スタート支援講座』は、本学健康科学部心理学科通信教育課程看護学コースの科目等履修で単位取得した学生が、大学評価・学位授与機構に学位申請のために提出する学修成果レポート作成のスタートを支援するための研修として、2013年度から開始された。2013年度は個人指導としたが、受講者が主体的にレポート作成に取り組めるよう、2014年度からグループ演習を中心に展開している。但し、2020年度はCOVID19により中止、2021年度は初めての試みとしてオンラインで実施した。2022年度は、受講者の希望に沿って、オンラインと対面のハイブリッド型で実施した。また、学位申請の時期にあわせて、前期（A・B日程）に追加して、後期（C・D日程）も実施した。講師は本学看護学部専任教員1名と通信教育課程を担当する非常勤講師3名が担当した（表1参照）。

### 1. 2022年度の変更・改善点

2022年度は先述した日程追加に加えて、以下の点の変更・改善を行っている。

- ・「講義（申請ガイダンス・論理的思考）」をオンデマンド配信とし、グループ学習の時間を確保する。
- ・オンデマンドによる講義の視聴、事前課題（レポートテーマの書き出し）の作成、グループ学習でのプレゼンテーションとフィードバックという反転授業形式を採用した。
- ・看護学コース在籍者、コース未修了者の受講を許可する。
- ・これまでの希望者の状況を踏まえ、講師を増員（4名）し、受講定員を増やす。
- ・受講形態として、対面・オンラインを選択可能とする。
- ・グループ学習後、アフターフォローとして希望

者からの質問を受け付ける。

### 2. 講座の構成

1の変更・改善により、2022年度は以下のような構成の講座となった。

- 1) 学位申請手続ガイダンス（健康科学部心理学科通信教育課程事務 北村担当）
  - ・学位申請手続きに関するガイダンス（オンデマンド配信）
- 2) レポート作成に向けた講座（看護学部准教授 竹下担当）
  - ・論理的思考、テーマ設定や文献検索等に関する講義（オンデマンド配信）
- 3) レポート作成にむけたグループ学習
  - ・Step 0 事前課題（レポートのテーマやキーワード、動機をまとめておく）
  - ・Step 1 レポートのテーマを絞る（日時を指定した演習形式の授業）
  - ・Step 2 レポートのアウトラインの作成（日時を指定した演習形式の授業）
- 4) 講座後のサポート
  - ・受講生から質問を受け付ける
- 5) 受講者同士の交流機会の提供
  - ・オンラインによる受講者同士の交流場所（チャット等による交流スペース）の提供



### 3. グループ学習の参加者数／申込者数

各日程の参加者/申込者数と担当教員は以下のとおりであった。

表1 各日程の参加者/申込者数と担当教員

|     | Step | 日程       | 時間          | 参加者数/申込者数   |                      |
|-----|------|----------|-------------|-------------|----------------------|
|     |      |          |             | 対面          | オンライン                |
| A日程 | 1    | 5月10日(火) | 10:00～16:15 | 8/8 (竹下・鈴木) | 7/8 (穴吹・マルティネス)      |
|     | 2    | 6月9日(木)  | 13:00～16:15 | 8/8 (竹下・鈴木) | 7/8 (穴吹・マルティネス)      |
| B日程 | 1    | 5月31日(火) | 10:00～16:15 | 4/4 (竹下)    | 12/12 (鈴木・穴吹・マルティネス) |
|     | 2    | 6月23日(木) | 13:00～16:15 | 4/4 (竹下)    | 12/12 (鈴木・穴吹・マルティネス) |
| C日程 | 1    | 11月1日(火) | 10:00～16:15 | 2/3 (竹下)    | 13/13 (鈴木・穴吹・マルティネス) |
|     | 2    | 12月2日(金) | 13:00～16:15 | 2/3 (竹下)    | 13/13 (鈴木・穴吹・マルティネス) |
| D日程 | 1    | 11月8日(火) | 10:00～16:15 | 3/3 (竹下)    | 9/9 (鈴木・穴吹・マルティネス)   |
|     | 2    | 12月9日(金) | 13:00～16:15 | 3/3 (竹下)    | 7/9 (鈴木・穴吹・マルティネス)   |

前期・後期の合計参加者数/申込者数：対面17/18 オンライン41/42 合計58/60

※参考 2022年度本学科目等履修生看護学コース在籍中の申込者数：20 在籍者総数：176

2021年度本学科目等履修生看護学コース修了者の申込者数：36 修了者総数：92

### 4. オンデマンド配信講義の受講状況

#### 1) 学位申請ガイダンス (15分程度)

表2 オンデマンド配信 「学位申請ガイダンス」 講義の受講状況

| 日程  | 受講形態  | 人数 | 未受講者数 | 平均視聴時間  |
|-----|-------|----|-------|---------|
| A日程 | 対面    | 8  | 2     | 0:22:28 |
|     | オンライン | 8  | 2     | 0:17:55 |
| B日程 | 対面    | 4  | 0     | 0:01:38 |
|     | オンライン | 12 | 1     | 0:13:53 |
| C日程 | 対面    | 1  | 2     | 0:00:47 |
|     | オンライン | 11 | 2     | 0:17:44 |
| D日程 | 対面    | 3  | 0     | 0:19:56 |
|     | オンライン | 6  | 3     | 0:17:35 |

## 2) 「論理的思考」講義（50分程度）

表3 オンデマンド配信 「論理的思考」講義の受講状況

| 日程  | 受講形態  | 人数 | 未受講者数 | 平均視聴時間  |
|-----|-------|----|-------|---------|
| A日程 | 対面    | 8  | 0     | 1:03:52 |
|     | オンライン | 8  | 2     | 0:51:49 |
| B日程 | 対面    | 4  | 0     | 0:45:43 |
|     | オンライン | 12 | 1     | 1:15:29 |
| C日程 | 対面    | 2  | 1     | 0:25:26 |
|     | オンライン | 8  | 5     | 0:37:45 |
| D日程 | 対面    | 3  | 0     | 1:31:41 |
|     | オンライン | 7  | 2     | 0:56:38 |

## 5. 講座後のサポート（担当教員への質問）利用状況（2／14現在）

表4 日程ごとの講座後のサポート（担当教員への質問）利用状況

| 日程   | 受講形態  | 人数 | 利用者数 |
|------|-------|----|------|
| A日程  | 対面    | 8  | 5    |
|      | オンライン | 8  | 4    |
| B日程  | 対面    | 4  | 3    |
|      | オンライン | 12 | 2    |
| C日程※ | 対面    | 3  | 1    |
|      | オンライン | 13 | 1    |
| D日程※ | 対面    | 3  | 1    |
|      | オンライン | 9  | 2    |

## 6. グループ学習終了後アンケート結果

受講後の満足度・理解度と具体的な記述内容を以下にまとめた。

### 1) 満足度・理解度

表5 受講後の満足度・理解度

| 日程  | 受講形態  | 人数 | 回答者数 | 満足度（平均） | 理解度（平均） |
|-----|-------|----|------|---------|---------|
| A日程 | 対面    | 8  | 3    | 5.0/5.0 | 5.0/5.0 |
|     | オンライン | 8  | 3    | 4.0/5.0 | 4.0/5.0 |
| B日程 | 対面    | 4  | 1    | 4.0/5.0 | 4.0/5.0 |
|     | オンライン | 12 | 4    | 5.0/5.0 | 4.3/5.0 |
| C日程 | 対面    | 3  | 0    | —       | —       |
|     | オンライン | 13 | 3    | 3.7/5.0 | 3.3/5.0 |
| D日程 | 対面    | 3  | 1    | 4.0/5.0 | 4.0/5.0 |
|     | オンライン | 9  | 4    | 4.0/5.0 | 4.5/5.0 |

### 2) 満足できた点

#### 対面参加

- ・直接、文献を見ながら指導をもらえた

#### オンライン参加

- ・レポート作成に不慣れだったので、レポートの書き方など書籍を元に作成していたが、作成方法や記載例を具体的に示してもらえた。
- ・他の人のテーマや課題も聴けて参考になった。少人数で話しやすかった。自宅で問題なく受講できた。
- ・自分の課題を見出すことができたから
- ・最終日はマンツーマンで、同じようにレポート作成について、悩み、学ぶ方々がいて刺激になった。
- ・他の方の考え方や進め方がわかること、様々な意見を聞くことができた
- ・丁寧に文献の調べ方、レポートの書き方、文章の組み立て方、レポートのテーマなどを人と話し合いながら決めることができた。一人な

らできなかったと思うのでとても助かった。

### 3) 理解できた点

#### 対面参加

- ・学士論文の書く目的を考え、決定する支援を得られたから

#### オンライン参加

- ・グループの皆さんのアウトラインなど参考にでき、自身のアウトラインにも反映させられた。
- ・講師の助言がわかりやすく、順序だって相談出来た。
- ・他の人の意見を聞くことができた結果、参考になったから
- ・私とは違った方向でのレポート作成を考えており、理解まではいかなかったが、勉強になった。
- ・他の方のレポートの進め方が実例となり、理解しやすくなった。

- ・レポートの書き方。文章の構成やテーマの作成。最終的なレポート内容のゴールビジョンなど具体的に決めることができた。
- ・他の人が指導を受けている時に為になることを知ることができた。

#### 4) 不満に思った点

##### 対面参加

- ・なし

##### オンライン参加

- ・進捗、作業段階で聞きたいこと教えて欲しいことが異なるかと思うが、進捗にばらつきなどがあり段階的な学習が出来づらいなと思った。
- ・限られた時間の中で、自分の質問に時間がかかっているなど感じ、他の方に申し訳なかった。

#### 5) 受講方法(対面・オンライン)についてよかった点

##### 対面参加

- ・自分の思いや考えを他者に述べる中で、自分の考えがまとまり、論文の目的が見えて来た。

##### オンライン参加

- ・オンラインで参加したが、特に不自由は感じなかった
- ・自宅で受講できた。育児中のためありがたかった。
- ・顔を出さなくて良い。
- ・オンラインだったが質問がしやすかった。また、共有画面で具体的に指導してもらえ、チャットでのやり取りができてよかった。
- ・PC操作、配信関連に抵抗感が少し減ったこと。
- ・自宅で受けることができたのはとても助かった。

た。

- ・落ち着いて受講できた。

#### 6) 受講方法(対面・オンライン)について悪かった点

##### 対面参加

- ・なし

##### オンライン参加

- ・私自身がPC操作関連に疎いので、スムーズに操作できなかったこと。不具合への対処等に対する不安と緊張感があった。

#### 7) 全体の感想

##### 対面参加

- ・なし

##### オンライン参加

- ・有意義な時間となった。
- ・モチベーションアップにつながった。
- ・初めてオンラインでの講習を受けた。パソコンの使用の仕方も未熟ではあったが、分かりやすく指導を得られた。また、レポートの作成に関しても、分かりやすく、頑張って書いてみよう、とやる気が出た。受講してよかった。
- ・不慣れな配信受講に緊張したが、講師のお人柄に支えられてレポート作成の方法が理解できた。
- ・グループワークで行う理由が初めはわからなかったが、他者の考え方等に触れることで、理解が進みやすくなると理解できた。思っていた以上に楽しく学習できた。
- ・受けて良かった。チャットなどで自由に質疑応答できた。
- ・指導をしてもらい、1人で考えるよりスムーズに進めることができた。

## 7. 前期講座受講者の学位申請状況および感想等について（修了生向けアンケートより）

## 1) 学位申請状況

表6 前期講座受講者の学位申請状況

| 日程  | 受講形態  | 人数 | 回答者 | 10月学士<br>申請者数 | 来年3月<br>申請予定者 |
|-----|-------|----|-----|---------------|---------------|
| A日程 | 対面    | 8  | 3   | 3             |               |
|     | オンライン | 8  | 2   | 2             |               |
| B日程 | 対面    | 4  | 3   | 1             | 2             |
|     | オンライン | 12 | 2   | 2             |               |

## 2) 学修成果レポートの作成にあたって苦労したこと

仕事・育児等との両立 6名

文章量の確保 4名

レポートのテーマ決め 3名

参考・引用文献の書き方 1名

文章構成 1名

よい経験となった。

・講座はとてもよかった

・楽しく学べた。

## 3) 学修成果レポートの合計作成期間

3ヶ月～半年未満 6名

1ヶ月程度 2名

## 4) 在学中にしておけばよかったこと

・文献の収集と読み込み 3件

・テーマを考えておく 2件

## 8. 講座後のサポートについて

2022年度から1人3回までを上限に質問や指導を受け付けることになった（表4参照）。質問内容は様々である。下記が質問内容等の一部である。講師陣4名は、受講者からの質問に対し、真摯に返答を行っている。今年度は、これまでなかった講座後のサポートが追加されたことにより、受講後の個人でのレポート作成に対し、不明な点を担当講師に質問やアドバイス等を受けられる体制ができ、前年度までと比較し、レポート作成の一助にさらになったのではないかと考える。

## 5) その他、要望や感想

・学習成果レポート作成講座で、作成したレポートを完成するまで指導を得られたらと希望する。

・臨床看護の世界は視野が狭くなりがちなので、改めて学習することで知識の幅が広がり新しい視点を得られたことは受講した成果だと考える。学ぶ楽しさも思い出すことができ大変

## &lt;質問内容等&gt;

・アウトラインを目次立てするにあたって、序論、本論、結論としてどのような目次を立てればよいか。

・引用元となる文献（書籍）の執筆者が多人数で且つ、引用ページの執筆者がわからない場合は文献情報をどのように本文に記載したらよいか。

- ・結論と終わりは一緒か、あと、どのようなことを書けばよいか。
- ・引用文献、参考文献の書き方についても教えてほしい。
- ・講義中に配布された「論文の構成」プリントでは問われていることの理解が出来ないところがあったので自分なりに解釈した内容で構成してみた。レポートの流れがあっているのかわからずただただ不安で送ってみた。
- ・機構の指定する枚数に足りません、3.方法・結果をふやせばよいか？
- ・レポート内容確認依頼
- ・学習成果をレポートとする場合、レポートの内容は、各自が設定したテーマについて①根拠に基づいてあなた自身の考察・意見を論述したものであること②調査や実験を必須とするものではない、とある。一方で、③設定したテーマに対して、適切な方法（文献研究、調査、実験など）を用いた学修がなされていることとある。査読頂いたレポートは「～(省略)」という私の主張を裏付けるために意図的に文献を探し選んで書いたレポートであり、文献検討＝研究ではないと思うが…（それは適切な方法ではなく恣意的であるということなのか）。レポートを書くために文献を探すことは、恐らく受験者全員が行っていると思うが、全員に文献レビュー＝論文として書くことを求められるのか。国会図書館で合格レポートを拝読したがそのようなものはなかった。私の主張を裏付けるために文献を探し考察したことにおいて、方法・結果（検証とその結果）はないという形で、修正すればよいか。
- ・引用文献として、文科省などの調査をホームページからたくさん使用したが、どこからがタイトルなのかかわからないものが多く、サイトの引用・参考文献の記載方法や、17ページの記載の順番が合っているのかも不安。
- ・自分ではほぼ完成に近い形で提出しているつもりだが、見ていただくとわかるようにページ数が足りていない。自分では今後具体的にどのように肉付けしていったらよいかかわからない。ほかに参考文献を載せたが、孫引きと何が違うかわからない。参考文献は孫引きになってしまうのか。その場合、参考文献まで本当は精読できるのが望ましいが、ダウンロードできないものがほとんどで、読むことが困難な状況である。
- ・引用の書き方は本で確認して記載したがこれでよいか？目次の項目が増えたが、まとめたほうが良いか。
- ・考察部分まで行き着いたが、その後「まとめ」部分が必要になるのか分からず悩んでいる。過去の学習成果レポートでは、まとめ部分があるものも把握しているが、考察がまとめに重複するので不要ではないかとも思っている。また、学位への途でも、まとめについては触れられていない。考察あとの、まとめの章立てについて、要不要を知りたい。
- ・文章を構成するときに、1. 1). i. ①などの番号をどの順番で使用すればよいのか知りたい。
- ・引用の仕方、引用したところをわかりやすく「」をつけると習ったと思うが、先行文献を読んでいると、「」なく引用されている。まだレポートは途中で申し訳ないが、私の引用は「」もあれば、ないのもある感じになってしまっている。先行文献を習って、文章上に引用すると「」つけなくてもいいか。現在「」ありとなしが混ざっているが、統一したほうがいいか。

## 9. 運営上の課題について

### 1) 学外からのデータベース利用

現状、本学に在籍している間のみ図書館のデータベースを利用できる。在学中からVPN接続などの手続きとともに利用を案内しておく必要がある。

### 2) オンデマンド配信講義の未受講者

前期でも課題となったことだが、オンデマンド配信講義の受講者と未受講者の差が大きく、グループ学習が「反転授業」として機能していないケースもある。今後受講を促進していきたい。

### 3) 参加者間の交流

前期・後期ともに対面参加者を除いた受講生の交流が希薄である。

## 10. 今後について

### 1) 前期・後期受講者の継続的なフォロー

試験終了の1月、最終結果が発表される2月、後期申請期限の3月まで継続的にフォローメールを配信し、大学とのつながりを保ちつつ、結果を回収していきたい。

### 2) アンケートの実施

講座申込者・未申込者含めて、看護学コース修了者へのアンケートを引き続き実施し、今後も学位申請状況の把握を追及していきたい。

### 3) 次年度への取り組み

- ・再販が決定した「短大・専門学校卒ナースが簡単に看護大学卒 学修成果レポート作成入門」をテキストとして指定し、看護学コース生に対して購入を勧める。

- ・在学中から文献の収集などのツールとして図書館のデータベースを紹介する機会を設けた。
- ・受講者間の交流については、ニーズの把握とともに、今後の支援策について検討していきたい。
- ・「学修成果レポート作成支援講座」だけでなく、「看護学コース」全体に「学修成果レポート作成」「学位申請」を念頭に置きつつ、学修を進めるという雰囲気作りが重要であると考ええる。
- ・後期（C・D日程）の申し込み期間を拡張し、前期期間中も申し込めるようにする。
- ・ディスカッションルームの利用実績および問い合わせ等もないことから、オンラインの場合はニーズがないと判断し、オンライン交流ツールを廃止する（交流を希望する学生には対面での参加を推奨する）。
- ・そもそもレポートを作成する際の「論理的思考」能力の涵養を早くから促すために、「看護学コース」の在籍期間中から本年度のオンデマンド「講義」部分を補助コンテンツとして公開し、レポート作成に対するレディネスを形成させる。
- ・グループ学習後のフォローとして、学生の進捗状況を鑑みて、各担当教員から事後課題を設定し、提出を促す。

看護学部 准教授 竹下夏美

## ■2022年度 たちばなSIM.

京都橘大学看護学部では、2012年度から卒業生に対するキャリア開発事業として、シミュレーション学習を中心とした研修プログラム「たちばなSIM.」を開催しております。2020年度に中止を余儀なくされたことから、今年度で10年目の節目を迎えることができました。今年も、オープンキャンパスと同時開催となったことから、「たちばなSIM.」の様子について、来学された多くの高校生やご家族にも公開され、椅子に座って、受講者と一緒に聴講されたり、シミュレーションの様子を見ていただいたりする機会にもなりました。

COVID-19の第7波の影響により、勤務希望が出しづらく、申し込みをすることが難しい状況下もあったようですが、2回とも対面開催を実現することができました（表1～2、図1～6）。参加した卒業生は、COVID-19の影響が続く臨床現場に出て

間もないナースが中心であり、「たちばなSIM.」にて、知識や技術の振り返りをする機会を得ようとする姿勢は、真剣そのものでした。配属先の専門性に関係なく、在学時の友人関係と一緒に参加されている方もおられ、講師参加している教員にとっても、嬉しい時間になりました。COVID-19感染対策のために、半日開催（3時間半）となっていることから、残念ながら、歓談の時間は以前よりも減ってしまいました。しかしながら、参加者は、講義や演習では、積極的にメンバーと意見交換をしたり、声をかけたりしながら取り組み、一方で、休憩時間には、職場での配置決定の報告や看護実践での出来事、毎日の大変さについて吐露し、安心して語り合える場にもなっているようでした。また、在学時よりも、心なしか少し頼もしく感じられたことが、とても印象的でした。

表1 2022年度「たちばなSIM.」開催概要（開催場所：シミュレーションcommons）

| 回       | 第1回                                                                        | 第2回                                                                                                      |
|---------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 程     | 2022年6月12日（日）                                                              | 2022年7月17日（日）                                                                                            |
| テ ー マ   | 心不全患者と呼吸不全患者をマモル！！                                                         | お産を取り巻く急変対応（新生児蘇生法）                                                                                      |
| 担 当 者   | 小山・野島・萬代・時岡・深尾・渡邊                                                          | 清水・川野・澤田                                                                                                 |
| 調 整 者   | 清水・三村・仲田                                                                   | 小山・野島・三村・仲田                                                                                              |
| 受 講 人 数 | 7名（申込者7名）                                                                  | 3名（申込者4名）                                                                                                |
| プログラム   | アイスブレーキング<br>講義<br>【復修】心不全ってなんでしょね？<br>事例紹介<br>動画視聴<br>ディスカッション<br>Sharing | アイスブレーキング<br>アルゴリズムの確認（講義と演習）<br>物品の確認<br>タスクトレーニング<br>（マスクバックのみ・マスクバックと胸骨圧迫）<br>状況設定トレーニング<br>（同じ事例で2回） |



表2 2022年度「たちばなSIM.」アンケート調査結果

| 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 第1回                  | 第2回                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 心不全患者と呼吸不全患者をマモル！！   | お産を取り巻く急変対応（新生児蘇生法）                                                                                                                                                                                                                                 |
| 1. たちばなSIMは、興味を引く内容でしたか？（1：全く思わない～5：とてもそう思う）                                                                                                                                                                                                                                                                             |                      |                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 5（とてもそう思う） 3名（42.9%） | 5（とてもそう思う） 3名（100%）                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 4 4名（57.1%）          |                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 2. 日々の仕事の役に立ちそうな内容でしたか？（1：全く思わない～5：とてもそう思う）                                                                                                                                                                                                                                                                              |                      |                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 5（とてもそう思う） 5名（71.4%） | 5（とてもそう思う） 2名（66.7%）                                                                                                                                                                                                                                |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 4 2名（28.6%）          | 4 1名（33.3%）                                                                                                                                                                                                                                         |
| 3. 「やればできそうだ」と思えましたか？（1：全く思わない～5：とてもそう思う）                                                                                                                                                                                                                                                                                |                      |                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 5（とてもそう思う） 3名（42.9%） | 5（とてもそう思う） 1名（33.3%）                                                                                                                                                                                                                                |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 4 1名（14.3%）          | 4 1名（33.3%）                                                                                                                                                                                                                                         |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 3 3名（42.9%）          | 3 1名（33.3%）                                                                                                                                                                                                                                         |
| 4. 満足度を「1」を最も低い、「5」を最も高いとしてお答えください。                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                      |                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 5（とてもそう思う） 4名（57.1%） | 5（とてもそう思う） 3名（100%）                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 4 3名（42.9%）          |                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 5. 参加した感想をなんでもお書きください。<br>また今後たちばなSIM. で実施してほしいテーマがございましたら、お聞かせください。<br>（記載内容：原文）                                                                                                                                                                                                                                        |                      |                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の方の看護に対する考え方や意見を聞くことができて学びになりました。ありがとうございました！</li> <li>・アセスメントなどの不十分な視点に気づくことができて良かったです。</li> <li>・日々の看護実践の振り返りになりました。可能であれば、少し上の学年を対象とした人工呼吸器患者の観察やアセスメントの内容を取り扱っていたけると嬉しいです。</li> <li>・いろんな視点で患者さんをみるのが大切だと思いました。今は目の前の手技にいっぱいいっぱいになってしまってるので、今日の視点をいかしていきたいと思います。</li> </ul> |                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて見る新生児蘇生の物品に驚きました。少しでも周産期の蘇生を勉強したことがあるけれど、実際にやってみるのも初めてで緊張したけれどとてもいい機会になりました。ありがとうございました。</li> <li>・座学だけでなく、シミュレーションで考えながら体を動かすことで臨床の現場をイメージすることができて良かったです。</li> <li>・実際にシミュレーションできてすごい良かったです。</li> </ul> |



図1 第1回 講義の様子



図4 第2回 講義の様子



図2 第1回 動画視聴



図5 第2回 器材確認



図3 第1回 グループワーク



図6 第2回 シミュレーション

新しい知識や技術に触れること、視野を広げること、多様な価値観を尊重することは、看護のキャリアアップに必要であると頭では理解できていても、行動に反映することがなかなか難しいものです。しかしながら、「たちばなSIM.」の参加者の感想から、卒業生同士が、日常的な経験に基づき知識や思考を活かしながらも、同窓生との交流を通して、他者との違いから多くの刺激を得て、前向きに楽しみながら学ぶ機会になっていることが伺えました。シミュレーションの際にも、誰からというわけでもなく、声をかけ始め、より良い対応のためには、みんなで声を掛け合いながら取り組むことが必要であることを再確認されていました。再度、実施してみる際には、みんなで声を掛けて、お互いをサポートしながら1つのチームとなった自分たちの対応の変化を確認して、はにかんだ笑顔もこぼれていました。学部時代から培われてきたデブリーフィングをはじめと

する卒業生のシミュレーションから学ぶ力の高さが、短い時間でもシミュレーションの学びが深まる理由のようにも、感じられました。

今年度の開催も小規模ではありましたが、感染のリスクを鑑みながらも、卒業生たちのキャリアアップを支えるために、対面だから得られる学びの大切さを再確認する機会となりました。今後も引き続き、卒業生が参加しやすい運用を模索することになりますが、対面ならではのシミュレーションをベースとしたより魅力的なプログラムを企画し、「母校で同窓生とだから安心して楽しく学習にコミットできる機会となった」となるように、引き続き、お互いを高めあい、一緒に成長し続ける事業でありたいと願っています。

看護学部 准教授 清水 彩



2022 京都橘大学  
看護教育研修センター  
看護キャリア開発事業

# たちばなSIM.

大学卒業後も看護学を学び続け、保健医療の現場で活躍する卒業生を応援する事業です。  
リラックスし、安心できる学びの空間で、働きながら身に付けた知識を改めて学びほぐす場を提供します。  
シミュレーションを取り入れながら楽しく学ぶ「たちばなSIM.」、みなさんの参加をお待ちしています!!

開催場所： 京都橘大学 清優館  
参加費： 卒業生 ¥3,000/回、その他 ¥4,000/回(教材費を含む)  
対象者： 本学部卒業生 卒業生ではない方も一緒に参加OK!  
定員： 各30名(先着順)  
担当教員： 野島 敬祐・清水 彩 他

HPを  
CHECK!

※新型コロナウイルス感染症の状況によりオンライン開催になる可能性があります。

## 第1回 <対面開催>

### 心不全患者と呼吸不全患者をマモル!!

2事例のシミュレーション演習を通して、  
「知識」と「技術」を磨くトレーニング!!

2022年6月12日(日) 13:00~16:30

## 第2回 <対面開催>

### お産を取り巻く急変対応

NCPR2020のポイントを確認して、新生児蘇生を  
できるようになろう!

2022年7月17日(日) 13:00~16:30

(認定証の更新に必要なNCPRスキルアップ講習としての参加は先着6名!  
申し込み時に選択ください。ただし、オンライン開催への変更時は中止となります)

## お申し込み方法

専用入力フォームからの申し込み→右のQRコードをご利用ください。  
<https://bit.ly/3gXazlq>

たちばなSIM  で検索!

## お問い合わせ先

京都橘大学 看護教育研修センター 看護キャリア開発事業  
〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34  
E-mail [aca-nm@tachibana-u.ac.jp](mailto:aca-nm@tachibana-u.ac.jp)  
※9:00~17:00(土・日・祝日を除く)



変化を楽しむ人であれ

京都橘大学

## ■2022年度 看護倫理研修

京都橘大学看護学部では、2018年度より「病院や施設で働く看護職者」を対象とした「看護倫理研修」を開催している。今年度は、2022年10月1日（土）に対面・オンラインのハイブリット形式の研修会を企画した。「臨床で直面する倫理的課題にどう向き合うか？―事例を通して考えよう―」をテーマに、日々の看護実践の中に潜む倫理的問題について参加者同士でディスカッションができる内容とした。研修会のスケジュールは表1の通り。

### 1. 看護倫理研修会の概要

申し込み者は13名であったが直前のキャンセルも

あり、参加者は10名、全員対面での参加であった。参加者の看護師経験年数や職位はさまざまであった（表2）。

参加者の研修参加動機は、「日々の悩みや関心、感情を明らかにしたい」「倫理的問題がありモヤモヤしていた」といった日々の看護実践における問題意識に関連したもの、「倫理について考える機会が増えた。教育的な視点でも学びたい」「倫理研修を担当するので、進め方の方法を考えるため」「倫理委員になりファシリテーションできるような知識を深めたい」「病棟で倫理カンファレンスを充実させたい」といった、研修会担当者として倫理研修の進

表1 スケジュール

| 時間                | 内容                                                                                               | 担当                       |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 13:00～13:05 (5分)  | オリエンテーション                                                                                        | 中橋                       |
| 13:05～14:25 (80分) | 【講義】倫理に関する基本的知識、思考プロセスについて講義                                                                     | 梶谷                       |
| 14:25～14:35       | 休憩                                                                                               |                          |
| 14:35～14:40 (5分)  | 事例検討のすすめ方、グループワークと発表方法について                                                                       | 中橋                       |
| 14:40～15:50 (70分) | 【グループディスカッション】<br>・自己紹介、役割分担（司会、書記、発表者等）<br>・事例の決定・共有<br>・事例について分析シートを用いて整理しながら、倫理的な看護実践について考える。 | 梶谷<br>・<br>中橋<br>・<br>岩崎 |
| 15:50～16:00       | 休憩                                                                                               |                          |
| 16:00～16:40 (40分) | 発表                                                                                               |                          |
| 16:40～16:50 (10分) | ファシリテーターからのコメント                                                                                  | 梶谷                       |
| 16:50～17:00 (10分) | 研修のまとめ<br>アンケート                                                                                  | 中橋                       |

表2 参加者の概要（N=9）

|         |                                                          |
|---------|----------------------------------------------------------|
| 年齢      | 20代：1名、30代：3名、40代：3名、50代：2名                              |
| 看護職経験年数 | 5年未満：1名、6～10年：1名、11～15年：2名、16～20年：1名、21年～25年：2名、26年以上：2名 |
| 職場での役職  | スタッフ：5名、主任・副主任：2名、師長・課長：2名                               |

め方を学びたいというような教育・管理的視点での動機も含まれた。

前半の講義では、参加者は、看護倫理を学ぶ意義や倫理における歴史的経緯、医療における倫理原則、看護者の倫理綱領などについて、看護倫理に関する基本的な知識を学んだ。後半は、参加者自身が経験した事例をもとに、講義内容を参考にしながらグループディスカッションを行った。1グループを4名とし、3グループに分かれて実施した。グループは、同じ施設・看護師経験年数・職位が重ならないように工夫した。さらに、1グループに1名のファシリテーターを配置し、グループワークが円滑に進むためのサポートを行った。参加者は、最初はやや戸惑いの様子がうかがえたが、ファシリテーターのサポートもあり、時間とともに活発な意見交換が見られるようになった。グループワークでは、3グループともが臨床現場で遭遇したリアルな事例を取り上げ、4ステップモデルを用いて事例を整理し、看護実践のあり方について討議した。取り上げていた事例は、急性期病棟に入院している認知機能が低下した高齢者への看護、COPD急性増悪患者の気管挿管に対する意思決定支援のあり方等であり、実際の状況やその場面で当事者が考えたこと等を情報共有しながら、具体的に話し合うことができていた。

## 2. アンケート結果（一部抜粋）

- 1) 本日の研修を終えての今の思い、これから実践してみたいこと
  - ・倫理的問題に気づけること。周りに発信したい。
  - ・日々、ちょっとしたモヤモヤを病棟で出し合える場をもちます。
  - ・スタッフみんなで話し合っていきたい。
  - ・分析シートを活用して積極的にカンファレン

スを開催できそう。

- 2) 倫理的な課題や問題について、もっと考えた  
いこと、話し合ってみたいこと
  - ・ACPIにも繋がるので、その部分を知りたい。
  - ・組織倫理にも興味あります。
  - ・自身の病棟で直面した事例について話し合ってみたい。
- 3) 自由記述
  - ・講義を聴き、事例もファシリテートしていただき学べるのがたくさんありました。
  - ・講義がおもしろかったです。グループワークも経験年数の上の方と話をさせていただけてとても有意義でした。
  - ・ガイドラインなど指針となるものの大切さを教えていただいたため、必要なガイドラインを把握できるようになりたい。
  - ・ジレンマを持ち続けていて、今日の研修で事例検討やアドバイスを聞く中で、課題を明らかにして解決に向かうよう話し合える風土作りが大切だと改めて感じました。
  - ・臨床に沿った看護倫理の講義でとてもわかりやすかったです。日々の業務の中に看護倫理はあるため看護師の感性も磨き、患者に寄り添い看護実践を行えるスタッフ育成を目指していきたいと思いました。

## 3. 評価と今後の展望

所属施設や看護師経験年数・職位の異なる看護師との交流により、日々の看護実践での悩みや迷いを自由に発言・共有し、多様な視点でのものの見方に気づき、自己の看護実践を振り返る時間になっていたと考える。「周りに発信したい」「ちょっとしたモヤモヤを病棟で出し合える場をもちます」「積極的にカンファレンスを開催できそう」といった声から



は、本研修の学びを積極的に職場に還元しようという思いが表れていた。このことから、ジレンマや葛藤を抱える看護職をエンパワーするような研修会になっていたと考える。

また、参加者からは「今日くらいの人数が話しやすい」という声もあった。所属施設から離れた場で、リラックスして本音で話し合える研修会という本研修会の趣旨を考えると、今後も少人数制での開催が望ましいと考える。さらに、今年度は、倫理研修会を企画する立場の看護職の参加が増えていた。クリ

ニカルラダーに倫理的問題に関する評価項目を設定している施設もあり、運営方法を学びたいというニーズを抱えていることがわかった。

以上より、臨床で働く看護職がゆっくりと看護実践を振り返り、自己の看護実践につなげていけるような研修会、そして、職場での倫理研修会の運営や方法を学べるような研修会となるよう、今後も検討していきたい。

看護学部 准教授 中橋 苗代



講義



ディスカッション①



ディスカッション②



修了証授与

## 京都橘大学看護教育研修センター 年報2022

発 行：2023年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel & FAX：075-574-4133

E-mail：cpdn@tachibana-u.ac.jp

URL：http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/